

一般社団法人 学術資源リポジトリ協議会

設立趣意

国内外に存在する学術資料は膨大かつ多種多様であり、それらに関する資料情報の共有と公開・発信は、学術分野が果たすべき重要な役割の1つである。

しかしながら、特に文献以外の学術資料に関しては、それらの情報を蓄積し、広く社会に対して公開するための「器」である、“学術資源リポジトリ環境”の標準化・普及は十分に進んでいるとは言いがたい。さらに、学術資料デジタルデータを社会的に共有する際に不可欠な、権利処理や個人情報保護、企業活動への利用など、基本的な理念や具体的な方針に関する実践的な議論も未成熟である。

学術資源リポジトリ協議会では、これら現状に対して、学術資料に関わる様々な立場の人間が自主的に参加し、広く学術資料を対象にした横断的な情報共有基盤の構築・整備と、それらに関わる人的なネットワークの形成を目的とする。多様な参加者が学術資料の情報化に関する議論と試行を行う「場」の創出により、機関・組織・専門領域など既存の概念・形式を超えた”新しい学術情報共有のかたち”が明らかとなり、社会貢献が実現されることを期待する。

2014年9月 設立時理事一同



学術資源リポジトリ協議会が目指す環境

目的等

当法人は、広く学術資料を対象にした横断的な情報共有基盤の構築・整備とそれらに関わる人的なネットワークの形成を目的とし、次の事業を行う。

- (1) 組織・分野を横断した学術資料情報の共有のためのサービスの提供。
- (2) 学術資源リポジトリの実現と普及に向けた活動。
- (3) 学術情報及び関連する専門知識を活用した社会貢献活動の実施。
- (4) その他、当法人の目的を達成するために必要な事業。

われわれと一緒に 資料情報の公開をしませんか？

私たちが提供する・できるサービスは以下の3つです。なお、以下で記す学術資料には、古文書・絵図・民具・出土品等の歴史資料や観測実験データ・画像データ等のデジタルデータを広く含みます。

1. 学術資源リポジトリ環境の提供

学術資料の詳細情報を蓄積・公開するための環境として、当協議会が運営する学術資源リポジトリ環境を提供します。また、研究者自身が学術資源リポジトリを構築したいと考える場合には、その技術面・運営面に対して支援を行います。

2. 学術資料情報の共有

当協議会では、様々な分野・機関を横断した学術資料調査を実施しています。研究者が参加する学術資料調査の実施や過去の調査成果の整理など、学術資料情報の生成・共有に関する活動を実施します。

3. 横断的な研究交流・連携の実現

専門分野や所属が異なる研究者同士が交流し、新しいプロジェクトを開始するための「場」を提供します。複数の研究者の連携による外部研究資金の獲得など、学際的な研究活動の実現を目指します。



学術資源リポジトリ協議会で提供できること

資料公開事例紹介

①教育掛図資料 [408 件]

教育掛図のデータベースです。

現在、奈良女子大学所蔵の資料（一部画像あり）、石川県立自然史資料館所蔵の資料を公開中です。

②科学実験機器資料 [819 件]

歴史的な科学実験機器のデータベースです。

現在、新潟大学、神戸大学、東京大学駒場博物館、石川県立自然史資料館所蔵の機器の一部を公開中です。

その他、研究者の意向で研究利用のみで一般公開されていないデータベースでも利用されています。

公開リポジトリ画面



教育掛図資料例



上図、左図ともに
石川県立自然史資料館所蔵教育掛図

お問い合わせ

一般社団法人学術資源リポジトリ協議会

石川県能美市山田町口8番地（合同会社 AMANE 本社内）

サイト <http://www.repon.org>

E-MAIL info@repon.org